



Title	阪大法学 70巻 3-4号 巻頭の辞
Author(s)	中山, 竜一
Citation	阪大法学. 2020, 70(3-4)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/87300
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

巻頭の辞

令和二年三月三十一日、田中仁先生が大阪大学大学院法学研究科を退職されました。先生の業績を称えらるとともに、先生に対する私たちの感謝と惜別の思いを込めて、ここに「阪大法学」特集号を刊行し、捧げます。

田中仁先生は、昭和五二年三月広島大学文学部史学科を卒業され、昭和五三年四月広島大学大学院文学研究科東洋史学博士前期課程に進学、昭和五六年三月同課程を修了、同年四月広島大学大学院文学研究科東洋史学博士後期課程に進学、昭和五九年三月同課程を単位取得満期退学されました。昭和五九年四月大阪外国語大学外国語学部講師として採用され、昭和六三年一月外国語学部助教に昇任、さらに平成一三年一月同学部教授に昇任されました。平成一九年一〇月大阪外国語大学が大阪大学と統合することで大阪大学大学院法学研究科に配置換えとなりました。

教育面では、大阪外国語大学外国語学部・大学院言語社会研究科（大学院外国語学研究科）と大阪大学法学部・大学院法学研究科において、主として中国政治史の授業を担当されました。中国の歴史・政治・文化・社会に関する豊富な学識と経験を踏まえた講義や演習を通じて、数多くの学生を指導し、大学院高度副プログラム「現代中国研究」を開講し、中国地域研究の学際性を実践する先駆的な教育に取り組みました。さらに、アジア共同体講座「特別講義…二一世紀世界の『歴史の語り』」では、グローバルな視点から異文化間の対話を可能とする教育活動に精力を傾けられました。それらに関連し『中国語中級読本——二〇世紀の中国政治二〇講』から『新・図説中国近現代史——日中新時代の見取図』に至る、数多くの教科書を出版されました。研究面でも、中国共産党史の分野で顕著な業績を残されました。一九三〇年代に毛沢東のライバルと目された王明（陳紹禹）に関わる実証研究から研究者としての歩みを始められ、多くの論考とともに単著『一九三〇年代中国政治史研究——中国共産党の危機と

再生』を執筆されました。同書は、従来の「革命史」・脱「革命史」・政党史といった枠組みと異なり、中国政治史の全体像を再構成するマクロの視点から、中国を取り巻く国際環境、国内の政治構造・中国共産党の内部構造を総合的に考察する、画期的な著作として高く評価されています。とりわけ田中教授は、国際的な学術交流の面で、中国・台湾の学界との研究交流と対話を積極的に進められました。大阪大学（大阪外国語大学）中国文化フォーラムを主導し、二〇〇七年から日中台のいわゆる「兩岸三地」間の定期的な交流を学校間交流という形で具体化するとともに、「現代中国と東アジア新環境」を主題とする国際セミナーを何度も開催することで、大学院生と若手研究者に研究発表と交流の場を提供し、次世代研究者の養成に大きく貢献されました。

管理運営面でも田中先生は多大な貢献をされました。本学法学研究科在職中も、多くの学内委員会や部内委員会の委員を歴任され、公開講座運営委員会、大阪大学出版会出版委員会、マルチリンガル養成プログラム運営協議会委員、国際公共政策研究科、理学研究科、未来研究機構第九部門（グローバルヒストリー研究部門）の兼任教員等として、法学・政治学とそれ以外の諸学、本学と学外との対話と交流の発展に尽くされました。

このように、田中先生は、教育・研究に大きな足跡を残され、また、大阪大学と法学部・法学研究科の発展のために尽力されました。ここに、先生に対し、あらためて深い敬意と感謝を捧げるとともに、これまで同様、私たちに対しあたたかくご指導を賜りますようお願い申し上げます。巻頭の言葉といたします。

令和二年一月

大阪大学法学会評議員長
大阪大学大学院法学研究科長
中山 竜 一